

岩手県総合計画審議会
第1回岩手の若者部会

(開催日時) 平成29年11月8日(水) 14:30~15:20
(開催場所) サンセール盛岡 3階「かきつばた」

- 1 開 会
- 2 委員及び事務局自己紹介
- 3 議 事
 - (1) 部会長及び副部会長の選出について
 - ア 部会長及び副部会長の選出
 - イ 部会長挨拶
 - (2) 部会審議の進め方について
 - (3) 次回の部会に向けて
 - (4) 各委員からの御発言
 - (5) その他
- 4 閉 会

出席委員

神谷未生委員、黒沢惟人委員、下向理奈委員、佐藤柊平委員、中野美知子委員

欠席委員

千田ゆきえ委員

1 開 会

○南政策地域部副部長兼政策推進室長 そろそろ定刻となりましたので、ただいまから岩手県総合計画審議会第1回岩手の若者部会を開催させていただきます。

私、事務局を担当いたしております政策地域部副部長の南でございます。暫時進行役を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

この若者部会は、後ほど御説明申し上げますが、県の政策全体にわたって若者のお立場からの御意見をいただくことを目的に設置したものでございますので、どうか委員の皆様のお忌憚のない御意見、よろしく願い申し上げます。

2 委員及び事務局自己紹介

○南政策地域部副部長兼政策推進室長 先ほどの審議会におきまして部会が設置され、お集まりの皆様が部会メンバーとして就任をされましたので、初めに委員の皆様から簡単に自己紹介をいただきたいと存じます。その後、恐縮ですが、事務局担当からも自己紹介をさせていただきます。

それでは、名簿順で恐縮でございますが、神谷委員さんのほうから自己紹介をよろしく願い申し上げます。

○**神谷未生委員** 一般社団法人おらが大槌夢広場で事務局長をしている神谷です。よろしくお願ひします。

○**南政策地域部副部長兼政策推進室長** 黒沢委員、よろしくお願ひします。

○**黒沢惟人委員** NPO法人w i zの黒沢です。よろしくお願ひします。

○**下向理奈委員** 野田村で活動していますNPO法人のんりのだ物語代表の下向です。よろしくお願ひします。

○**南政策地域部副部長兼政策推進室長** 佐藤さん、お願ひいたします。

○**佐藤柁平委員** 一般社団法人一関平泉イン・アウトバウンド推進協議会ディレクターと岩手わかすフェスの実行委員長をしております佐藤と申します。よろしくお願ひします。

○**南政策地域部副部長兼政策推進室長** 中野さん、お願ひいたします。

○**中野美知子委員** 有限会社アライブという不動産会社を経営させていただいております。22のときに開業しましたので、今17年目ということで、そういう形で不動産屋なのですが、ここに入らせていただいております。もう一つ、先ほど名刺の裏に一般社団法人盛岡青年会議所の副理事長をさせていただいております。そういう関係もあって、いろいろとまちづくりなどにも携わらせていただいております。どうぞよろしくお願ひいたします。

○**南政策地域部副部長兼政策推進室長** ありがとうございます。本日千田委員は御欠席でございます。

それでは、事務局でございます。

○**黒田環境生活部環境生活企画室企画課長** 環境生活部の環境生活企画室におります黒田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○**小野政策地域部政策推進室政策監** 当審議会を担当しております政策地域部政策推進室政策監を務めております小野でございます。当若者部会が非常に充実した審議が行われますようにさまざま準備を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○**葛尾政策地域部政策推進室調整監** 同じく政策推進室の調整監をやっております葛尾と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 政策推進室の田澤と申します。よろしくお願いいたします。

○沖田政策地域部政策推進室主査 同じく政策推進室、沖田と申します。総合計画審議会の事務局をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

○登坂政策地域部政策推進室主査 同じく政策推進室、登坂と申します。よろしくお願いいたします。

○上平政策地域部政策推進室主事 同じく政策推進室の上平と申します。よろしくお願いいたします。

○南政策地域部副部長兼政策推進室長 紹介は以上でございます。

3 議 事

(1) 部会長及び副部会長の選出について

ア 部会長及び副部会長の選出

イ 部会長挨拶

(2) 部会審議の進め方について

(3) 次回の部会に向けて

(4) 各委員からの御発言

(5) その他

○南政策地域部副部長兼政策推進室長 それでは、早速議事に入らせていただきます。

本来であれば、部会長選出までの間、仮の議長をどなたかにお願いし、議事を進めるべきところではありますが、僭越ではありますが、便宜的に事務局が議長役を務めさせていただくこととしてよろしゅうございますでしょうか。

「異議なし」の声

○南政策地域部副部長兼政策推進室長 ありがとうございます。それでは、恐縮でございますが、私のほうで議長役を務めさせていただきます。

まず、議事(1)の部会長及び副部会長の互選についてであります。先ほど審議会におきまして審議、了承いただいた岩手県総合計画審議会運営要領に基づき、部会長お一人、副部長お一人を委員の互選により決めさせていただきます。

それでは、どのような形で互選をすることといたしましょうか。もしないようであれば、事務局から御提案をさせていただくこととしてよろしゅうございますでしょうか。

「はい」の声

○南政策地域部副部長兼政策推進室長 ありがとうございます。それでは、事務局といた

しましては部会長を神谷未生委員に、副部会長を黒沢惟人委員にそれぞれお願いいたしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

「異議なし」の声

○南政策地域部副部長兼政策推進室長 ありがとうございます。

それでは、部会長を神谷委員に、副部会長を黒沢委員にお願いいたしたいと存じます。恐れ入りますが、神谷部会長には部会長席に御移動をお願いいたします。

それでは、神谷部会長、一言御挨拶をお願いいたします。

○神谷未生部会長 部会長に就任させていただきました神谷といたします。こういう会で部会長を務めるのは初めてなのですが、皆さんのいろいろな助けをお借りして、滞りなく会議を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○南政策地域部副部長兼政策推進室長 ありがとうございます。それでは、これ以降の進行につきましては神谷部会長にお願いいたします。

○神谷未生部会長 それでは、議事（２）の「部会審議の進め方について」に入ります。今後の部会審議の進め方について、事務局から御説明をお願いいたします。

○小野政策地域部政策推進室政策監 それでは、事務局を務めております小野でございます。私から資料１に基づきまして部会審議の進め方について御説明を申し上げます。恐縮ですけれども、着席して御説明いたします。

１、部会の役割のところを御覧いただきたいと思っておりますけれども、次期総合計画は今後10年の長期計画でございます。10年より先のさらに先を見据えて、今後10年どういうふうな岩手をつくっていくのか、そのためにどういう取組をしていくのかといったことを計画の中に盛り込んでいただきたいと考えております。その上で、やはりこれからの岩手でございますので、これからの岩手の主役であります若い方々の皆様の御意見、御提言を十分に踏まえて計画づくりを進めてまいりたいと考えております。

当若者部会につきまして、後ほど新たに委員になられた皆様には簡単に御説明いたしますが、次の計画、幸福をテーマに岩手の幸福度を高めるといった観点で計画づくりを進めてまいりたいと思っておりますけれども、その上で、12の幸福領域といったものがございます。そういった幸福といったものを踏まえながら、若者部会でございますので、特定の分野、例えば若者部会の前に本日行いました3つの部会、岩手の暮らし部会、岩手の仕事部会、それから岩手の学び・文化・スポーツ部会にそれぞれの所掌の分野がございますが、こちらの若者部会はそういった領域、分野には、特定せず、それぞれ委員の皆様から専門の分野、あるいは御活躍の分野、特に関心がある、あるいは考えている分野などにつきまして、幅広く御意見、御提言を頂戴して、計画に盛り込んでいきたいと、反映させていきたいと考えています。

２のところの所掌する政策分野、今お話ししたように特に限定はございません。それぞ

れお考えのところを御発言いただければと思います。

3の12領域につきましても、特に限定するものではありません。

主な審議内容、4を御覧いただきたいと思います。先ほどもお話ししましたが、暮らし、仕事、学び・文化・スポーツなどの3つの部会が既にございまして、そちらのほうでもその分野についての議論を進めてまいりますけれども、若者部会はこういった分野を超えて、施策全般に関して次のような項目についてお願いしたいと思います。まず、現状と課題、それから目指す姿、今後10年の目指す姿、そして具体的な展開方向でございます。

(1)の現状と課題につきましては、今庁内で強み、弱み、チャンスとリスクと、そういったものについて分析をしております。こういったものについてあらかじめ資料を御提供いたしますので、それぞれの皆様のお立場から、特に若者とといったお立場からぜひ今後、例えば若い人たちが活躍できるといった観点でも結構ですし、それに限らず今まで岩手で過ごす中で今後10年、こういったものが重要といったことについて幅広く御意見を頂戴したいと思っております。(2)目指す姿について、先程お話ししました現状と課題を整理した上、今後どういった方向があるべきか。当部会では全部を網羅するということは無理だと思いますので、部会で御議論をしていただく中で、特に委員の皆様から御意見が多かったところなどについて、集中的にポイントを捉えて御提言をいただくような形になると思います。その際に重要なのは、先程お話ししましたほかの3つの部会との関係がありますので、その3つの部会でどういう議論が行われているかということについて資料を提供するとともに、こちらの若者部会でどういう議論がなされているかといったことについて、それぞれの3つの部会にはフィードバックといいますか、情報提供して、うまくこちらの部会の意見が3つの部会にも反映させられるようにといったことで、そこに事務局としても注意しながら進めてまいりたいと思います。

下のところで、第1回から第5回まで、5回の部会を予定しておりますけれども、どういったことを行うかについて書いてございます。本日は、今御説明しています部会の審議の進め方、それから次回の部会についてといったことについて御説明し、委員の皆様から広く、まずは第1回目御意見を頂戴したいと思います。また、第2回の会議では、先程お話ししました現状と課題につきまして、事務局からたたき台をあらかじめお送りして、それを踏まえて御議論をお願いしたいと思います。また、今後の方向性についても御議論を頂戴したいと思います。第3回部会では、そういった第2回での御議論を踏まえて、目指す姿、具体的な展開方向について、事務局のほうからたたき台を示したいと思いますので、それにつきまして幅広く御意見を頂戴したいと思います。来年度、年度明け、4月でございますけれども、総合計画審議会として中間答申を6月に頂戴しますけれども、その素案について若者部会として御意見を頂戴したいと思います。5月には、さらにそういった各部会の意見を踏まえまして中間答申案が取りまとめられますので、そこについて御意見をいただければと思っております。

いずれ繰り返しになりますけれども、特に分野を限定するものではありません。ただ、拡散するのなかなか議論がまとまらない方向に行きますので、この部会の中で委員の皆様と御相談しながら方向を出していければと思います。ここは多少手探りの部会になるかと思っておりますので、委員の皆様によりしくお願いしたいと思います。

以上でございます。

○**神谷未生部会長** ただいま事務局から説明があった内容、スケジュールなどについて説明がありましたが、これにつきまして何か質問等がありましたら御発言をお願いいたします。大丈夫ですか。

「なし」の声

○**神谷未生部会長** それでは、ただいま事務局から説明があった内容、スケジュールにより、次回以降具体的な審議を進めてまいりますので、よろしくをお願いいたします。

次に、議事（３）の「次回の部会に向けて」について、事務局から説明をお願いいたします。

○**小野政策地域部政策推進室政策監** それでは、資料の２から資料の５によりまして御説明を申し上げます。

初めに、資料の２を御覧いただきたいと思います。実は、この前の議題でかなり説明してしまいましたけれども、次回の部会ではあらかじめ事務局のほうから本県の強み、弱み、チャンス、リスク、SWOT分析といったものを今県庁内で準備を進めておりますので、それについてあらかじめお送りし、御覧いただいた上で、特にお気づきの点、御意見ある分野など、政策分野に限らずといったことで結構ですので、今後の方向性などについて御意見を頂戴できればと思っております。その分析結果について、例えば強み、弱みの中で、こういった強みもあるのではないかと、あるいはこういった弱みにこれから気をつけなければいけないのではないかと、チャンス、リスクについてもそれぞれ御活躍の分野などでの情報といいますか、これまでの御実績も踏まえて御意見を頂戴できればと思っておりますし、それらも踏まえて今後こういったところについて取り組んでいくことが必要だというような御意見を頂戴できればと思っております。

その際に、資料の３、４、５と、これは実は総合計画審議会本体で、過去の審議会でお示した資料でございます。本日は、新たにお二人のメンバーが委員になられておりますので、簡単にこれについて御説明したいと思っております。

まず、資料の３を御覧いただきたいと思います。この資料の３は、「岩手の幸福に関する指標」研究会といたしまして、昨年度初めから今年度夏まで、岩手県立大学の吉野教授を初め有識者の皆様にお集まりいただいて、岩手の幸福についてどういう捉え方をしていくべきかといった研究をお願いし、報告書を取りまとめたものでございます。次期総合計画は、幸福、これをキーワードとして、岩手に住んでいる方などの幸福度、岩手の幸福度を高めるためにどういう取組がこれから必要かといったことについて、次期総合計画の中に盛り込んでいきたいと思っております。その背景といたしまして、このような研究会報告書を取りまとめたところでございます。

右側のほうに図がございますけれども、ここに仕事、収入から自然環境まで横に１２の項目が並んでおります。これが先ほどちょっとお話ししました１２の幸福領域、幸福に関しての１２の要素でございます。研究会が独自につくったわけではございませんで、OECDでありますとか内閣府など、さまざまなこれまで研究してきたものの結果も踏まえて、この

ような12の領域、一人一人の方が幸福について考えるとき、幸福を感じる時、どのような要素があるのかといったことで御議論いただいた結果、このような12の領域があるのではないかといたことでございます。ですので、これから次回の御議論の中でもぜひ、例えば余暇を充実させていくためにどういった取組が必要なのか、あるいは子育て、こういった面が重要ではないか、あるいはコミュニティ、地域社会とのつながり、こういったところの取組をしてつながりを深めていく必要があるのではないかと。このように12領域を一つの切り口として、さまざまな御意見、御提言をいただきたいと思っております。

次期総合計画は、申し上げましたように幸福をキーワードとしたいと思っております。そして行政であったり、企業であったり、みんなで取り組んで、これから10年の岩手をつくっていくといったことでございますけれども、そのときにこの幸福感、12の領域というものに着目しながら計画を組み上げていきたいと思っておりますので、ぜひこの幸福、12の領域に着目した御意見等をいただければ、その計画の中に反映することが、組み上げていくことができると考えております。

資料の4について引き続き御覧いただきたいと思っております。今御説明申し上げました幸福に関しての12の要素、12の領域について、主な論点、そういったものを事務局のほうで取りまとめたものでございます。12領域ごとに主要な論点、それから切り口、そしてキーワードを出しております。実は、県庁の若手で集まって、みんなでわいわい議論をしながら取りまとめたものでございますので、これが全てを網羅しているといったことではございませんけれども、こういった12領域についてさまざまお考えをいただく際の参考にしていただければと思っております。

それから続きまして、次の資料の5でございます。資料の5につきましては参考も含めて3ページとなっております。これにつきましても、昨年度の総合計画審議会の中での資料でございます。上のほうで本県が踏まえるべき時代の潮流といったことで、上のほうは今後10年どういったことがあるのか、世界、日本、そして岩手の中でどういった特徴的な出来事があるのかといったことについて、未来を見据えながらまとめたものでございます。また、1ページの下、そして2ページにかけましては、世界、そして日本、さらに岩手の中での時代の潮流、社会環境の変化などについてまとめたものでございます。

2ページの下を御覧いただければと思っておりますけれども、岩手の社会環境の変化といったことで、大きく4つの項目に分けて、こういったことが今後さまざまあるでしょうといったことで、例えば1、人口減少と少子高齢化の急速な進行といったことでございます。これは、人口ビジョンといったものをつくっております、今後大体平成52年の本県人口は約104万人の展望など、岩手県の人口について今後引き続き減少傾向になっていくといったことです。

それから、2のところでは東日本大震災からの復興、現在進行形でございますけれども、それをなし遂げ、さらにその先にどういった方向を見出していくべきかといったこと、3のところでは文化、スポーツの関係、そして4、若者、女性の活躍への期待の高まりといった方向が今後社会環境変化の中で起こってくると考えています。これにつきましても、今後の議論の中で参考にしていただければと思っております。

繰り返しになりますけれども、事務局といたしまして、次回に向けて御発言いただくためのたたき台になりますような資料をあらかじめお送りしたいと思っておりますので、それを御

覧いただきまして、第2回の審議をお願いできればと思います。

以上でございます。

○神谷未生部会長 ありがとうございます。ただいま事務局から第2回に向けた御説明がありました。これに関し、御質問などありましたら御発言をお願いいたします。これに関して、御質問はよろしいでしょうか。

「なし」の声

○神谷未生部会長 では、ただいまの事務局からの依頼について、次回の部会で意見を伺うということでしたので、皆様の御協力をお願いいたします。

今回は、第1回目の部会ですので、日ごろ取り組んでおられる仕事や活動、今後取り組んでいくべき方向性などについて、委員一人一人からお話をいただきたいと存じます。

それでは、恐れ入りますが、黒沢委員から着席順に御発言をお願いします。発言時間はお一人3分程度をお願いいたします。

○黒沢惟人委員 改めまして黒沢です。よろしく申し上げます。

普段の活動と関連して先ほど仕事部会でお話ししそびれたことについて、この部会で今後議論できればいいなということの問題提起としてお話しします。

いわゆる25歳から35歳の年代で、首都圏でもそうですけれども、フリーランスやダブルワークという言葉が浸透してきています。昔のイメージですと、年配の方が夏は農業で、冬場はどこかに出稼ぎに行くことをダブルワークと思っていたのですけれども、最近は一種の自己実現としてダブルワークやフリーランスという立場をとる、僕も含めそうですが、そういった方が増えつつあると感じています。これは、現状の岩手にある求人への不満足感も表れているのではないかと感じていまして、単純な求人だとやはり満足できない。それは、仕事の内容、賃金も含めてですけれども、何よりも自分がその組織、仕事によって自己肯定感、自己満足感が出せそうにないと感じていることが、結果的に自分たちで法人をつくったり、フリーランスのような働き方をしてみたりといったことにつながっているのではないかと、自分の実体験を含めて思っています。

そのため、20代後半から40歳くらいでそういう感覚の方々が、今地域おこし協力隊などになっているのではないかと思いますし、首都圏で働いている同世代の方などもそういったかかわり方ができるのであれば、岩手をフィールドに活動や仕事をしていきたいという方も少なからずいるのではないかと感じています。先程の部会でお話があったものづくり産業の雇用と、こういう働き方といいますか、自己実現のような、言ってしまえば個人で見るとそれほどではないかもしれないけれども、個人個人を足していけばそれなりの必要性、重要性があるような働き方、生き方について、本部会の議論で10年後を考えていくということでしたら、改めてダブルワーク、フリーランスについて考えていくことが重要になってくると思っております。

○神谷未生部会長 ありがとうございます。

それでは、下向委員、お願いいたします。

○下向理奈委員 私は、普段交流事業ということで、主に農家の方とか漁師の方の家に泊まる民泊のコーディネートやあっせんをしています。ただいま黒沢さんからお話が出たダブルワークというのを、最近は一コマコミットというようです。一コマコミットというのは、副業とは違って、それぞれの仕事の相乗効果があるという働き方のようです。先程佐藤委員に県北にも何か面白い人材がほしいという話をしました。岩手県の県北、久慈地域にも、それなりに面白い人はいるのですけれども、やはりこうやって内陸に来る機会をいただいて、県が今力を入れているということで、さまざまな意見交換会などにも出席させていただくのですが、極端に言うと人材が内陸と県南にすごく偏っていると感じていました。最初は人材が欲しいと話をしていたのですけれども、もともと面白い人がいないのだったら面白い人になろうと思って法人を立ち上げました。いざ法人を運営してみると、1年目は何やっているのだという目で見られるのですけれども、2年目、3年目と経つにつれ、あの人ならやるだろうというような目になってきて、ただし、民泊事業では主に地域の高齢者の方とかかわることが多く、だんだん自分の精神年齢がこのままだと上がってしまう、それでは少し若い人たちと一緒に仕事したいなという想いになったのですが、一コマコミットのようなNPOで働きながら別の仕事もするというのは県北では難しいので、活動として参画してもらおうということで、若い母親たちを集めてハンドメイドグループというものをつくって、それをコーディネートさせてもらったりという、小さいことから始めているところです。内陸と県南と県北、あえてそれぞれのまちの特徴を少し絡めながら、若者らしい、岩手県だからこそできる若者の仕事の仕方だったり、暮らし方だったり、そういうものが見えてきたらもっとよくなるのではないかと思いますので、まだまだ未熟ではありますが、そういった観点で何か発言ができればと思っております。以上です。

○神谷未生部会長 ありがとうございます。
では、佐藤委員、お願いします。

○佐藤柊平委員 私は一関の生まれで、この8月に帰ってきたところで、首都圏のほうで岩手わかすフェスというイベントを毎年行う中で、首都圏在住の岩手出身の方ですとか、岩手ファンの方々、震災を機に岩手とつながりを持った方と、震災後から6年ほど、いろいろな方々と交流ですとか、お話をさせていただきました。その中で、今一関ではDMOの立ち上げですとか、農家民泊の準備、あるいは移住定住の促進といったような取組を行いながら、地域に新しい、一関・平泉地域のローカルなビジネスづくりをいろんな事業者さんの方と調整、準備をしているところなのですが、今回は岩手県総合計画審議会ということですので、今回委員をお引き受けするに当たって考えていることとしましては、岩手県の向こう10年のいろいろ想定される課題を踏まえて、岩手ならではのビジョンみたいなものを若者の視点で考えていけたらと思っております。

私の尊敬する方の一人で、初代岩手県の民選知事の国分謙吉さんという方が第1回岩手県議会で、岩手は独立するという施政方針演説をされて喝采を浴びたというエピソードを

伺ったことがございまして、本当に独立するわけではないのですが、ほかの地域と横並びではなくて、岩手ならではの、岩手らしい、岩手だからこそという話が議論できればと思いますし、そういう県民の皆さんにも共感していただけるようなものをつくっていただきたいと思います。基本的に全国総合開発計画にある「均衡ある国土の発展」のようなところで、ファストフード化する、よくあるような景色、よくあるような郊外地域のようなものが岩手は増えているわけですが、そういうものだけではなくて、やはり岩手のエッセンスといいますか、そういうものがしっかりある建物、景色、いろんな考え方も含めて、それを現代版にアップデートして、岩手らしいものを残して、岩手とかかわる人を増やしていけるようなことが全般的な指標の中で考えられていくと思っております。

最後にもう1つですが、岩手県という捉え方も、人口減少の中で、この岩手県内に在住している住民の百数十万人の方だけではなくて、岩手出身の人、岩手好きな人も全国にいて、そういう方も踏まえた岩手圏という捉え方で、この人口減少の時代を乗り切る、うまく地域が受けとめられるような施策全般についても考えられたらいいと思っています。

以上です。

○神谷未生部会長 ありがとうございます。

では次に、中野委員、お願いいたします。

○中野美知子委員 中野です。よろしく申し上げます。私は、NPO等の立場ではないので、地元の不動産会社として、経営者という立場でいろいろ今までまちづくり等に携わってきました。青年会議所というツールもあるのでありますが、経営者の集まりの中で、先程黒沢委員がおっしゃっていたのですが、自己実現ができない仕事が多いというお話を伺うと、雇用している側とするとすごく心が痛いのですが、経営者の立場から考えると、すごく人手不足という状況の中で、なぜそこに人がいないのかという、ミスマッチのような流れを実感しております。

先程の自己紹介でも言いましたけれども、私が会社を始めたとき、21歳だったのですが、この17年の中で時代も変わり、当時若手の起業家というのはほとんどいなかった時代だったのが、今はどんどん起業できる時代になっていって、ではこの先の10年どのように描いていくのかと考えたときに、皆さんの現状の話と先ほども話題に上ったITとか、そういうものの技術の進化の中で、人がどういうふうに働いて生きていくのかというところを皆さんからの話を聞いて、私もいろいろと考えていきたいと思っております。

青年会議所の関係で申しますと、人材育成とか、そこにいる人たちがどのように生き生きと暮らしていけるかというのが非常に重要であると考えています。障がいを持った方とか、外国人の方、そして若者部会ということで若者もいますけれども、若者が投げかけられる、先程の下向さんのお話ではないですが、老人の方々、高齢者の方々とどのような形で共存共栄をしていって、自分たちの力を生かしていけるかというのを考えていけたらと思います。まちづくりに必要なものは、私自身は経済も回っていかないと持続可能ではないと考えておりますので、その部分を皆さんと一緒に考えていけるのが一番いいと思っております。青年会議所でも、自分たちの仕事と、CSV（共通価値の創造）と10年前ぐらいによく言われていたお話ですが、その考え方で新たな価値を見出していけたらと

考えております。ぜひそういう観点も含めながら、皆さんとこの部会を政策提言とか政策を考える形で進められればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○神谷未生部会長 皆さん、多種多様な御意見をいただきありがとうございました。

最後に私のほうからも発言をということで、自己紹介を含めて発言させていただきたいと思います。

まず、お二人新しい方がいるので、簡単に自己紹介をさせていただくと、おらが大槌夢広場は、震災後に町民によって初めて大槌で立ち上げられた団体で、今企業研修と修学旅行生の受入で、実質実働スタッフ3人ですけれども、年間5,000人以上を受け入れている団体です。今一関でインバウンド、アウトバウンドの関連に携わられているということでしたけれども、一般観光がすごく注目されやすいのですが、私たちは研修という要素だけでそれだけの人の受入ができていますので、そこを軸にして岩手県をもっと売り込む方法があるのではないのかということなどをどの部会でもお話しして強く思っているところです。その点も若者部会で少し話し合い、若者なりのアイデアを県の政策に生かしていければと思います。大槌でも、シニアの方とお話しすると、今の若者の興味をひかない話題を持ってこられて、県庁でのひょっこりひょうたん島なのですけれども、全くそれが響かない世代の中学生を連れていっても、喜ぶのは校長先生だけのような状態で、なかなか前が見えない議論をずっと交わしているのですけれども、研修のあり方であったり、人を呼び込むであったり、ほかのテーマについても若者ならではの意見を出していければと思っています。

あと、私はIターン組で、もともと名古屋で生まれ育ちました。たまたまこちらの人と結婚して、大槌にいるのですけれども、私は本当にたまたま岩手に住んでいる感覚です。当然ながらこれは県の施策なので、岩手のよさ、岩手らしいという言葉がすごく前面に出るのですけれども、言われれば言われるほどおそらく若者には響かず、押しの強いセールスみたいになる部分がある気がしていて、そうではなくて、気がついたら岩手はいいというような感覚になっている状態というのが一番、住みやすくもあり、暮らしやすくもあり、幸せも追求しやすいと思いますので、岩手はいいといったキャンペーンを行うのではなく、気づいたら住んでいたけど、結構いいと感じるといったような、そのような感覚の人がこの部会には多いと思うので、それをどのようにうまく政策ベースに乗せていくかという議論ができればと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

○神谷未生部会長 では次に、議事（5）の「その他」について、これまでの議事について何か御意見等がある委員がいらっしゃいましたら御発言をお願いいたします。

下向委員、お願いします。

○下向理奈委員 冒頭で確認し忘れたのですけれども、この若者部会について、県としての大体のビジョンのようなものが、今の段階で何かありますでしょうか。

○小野政策地域部政策推進室政策監 若者部会のアウトプットのイメージですけれども、先程お話ししましたように、暮らし、仕事、それから学び・文化・スポーツ、全ての分野

にわたって御提言をいただくということは、おそらく時間的にも、内容的にも困難かと思っておりますので、そこまでお願いするものではなくて、その中から今お話のありましたような例えば働き方、自己実現の観点からの働き方、そのためのハーフコミット、あるいはフリーランスといったこと、仮にそれをこれから10年の中で、そういった働き方というのも重要だというような委員の皆様への御議論があれば、それが若い人たちというか、岩手で働く人たちがそれをやりやすいための仕組みづくり、例えばこういう仕組みがあるのではないかというような議論に進んでいくといったものも考えられると思っております、現時点では事務局として到達点を定めることは考えておりません。本日も含めて委員の皆様から御意見をいただきながら進めてまいりたいと思っておりますし、その一方で議論が収束しなければ、そこには達成感も何もあつたものではないですし、どのように次の計画に入れ込むのかということも見えてきませんので、その辺りにつきましてはメール等も活用しながら、委員の皆様へのいくつかの議論のポイントをお示ししながら、方向性の御相談をしていきたいと思っております。

他の通常3部会につきましては、議論の分野が固まっておりますので、そこはある程度県からたたき台をお示ししながらと思っておりますけれども、この若者部会についてはそうではなくて、委員の皆様からの御議論、御意見、御提言を入れてまとめていきたいということで、かなり委員の皆様方へお願いするところも多いと思うのですが、ぜひよろしくお願いいたします。

○神谷未生部会長 ほかに何か御質問等、御発言がある方いらっしゃいますか。よろしいでしょうか。

「なし」の声

○神谷未生部会長 ありがとうございます。それでは、進行を事務局のほうにお返しいたします。

4 閉 会

○南政策地域部副部長兼政策推進室長 神谷部会長、議事の進行ありがとうございます。

それでは、委員の皆様方には岩手の若者部会ということで、皆様それぞれ御専門の立場、そして県民の目線、さらには地域の目線から、さまざま幅広い御意見を頂戴できればと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

なお、次回部会は12月中、下旬を予定しております。開催日程につきましては、後ほど事務局のほうから御連絡をさせていただきます。

それでは、本日の若者部会はこれをもって閉会といたします。本日はまことにありがとうございました。